

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鵜飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

2 学期始業式より
～富士登山への挑戦～

おはようございます。

今日から2学期が始まります。夏休みを終えて皆さんの元気な顔を見ることができてうれしく思います。それぞれ充実した夏を過ごしたと思います。

1学期の終業式では防災の話をしました。残念ながら不安は現実となり、7月末には熊本で地震が発生し、8月には千葉での豪雨、石川・富山・福井などで集中豪雨がありました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、もう一つ、一学期の終業式で、私は皆さんに「挑戦」、すなわち自分自身の限界を突破してほしい、という話をしました。覚えている人もいるでしょうか。実はこの夏、私自身もその言葉通り、自分の限界に挑戦する機会を得ました。今日は、そのときの体験を皆さんにお話ししたいと思います。

私が挑戦したのは、日本一の山、富士山の山頂に立つこと。そして、そこでご来光を拝むことでした。今回は秋葉教頭先生、千葉先生、そして父母の会副会長の酒井さんとの4人で挑みました。私をはじめ秋葉教頭も千葉先生も富士登山は初めて。「生涯で一度は富士山に登ってみたい」という共通の思いを抱いていました。一方の酒井さんは、山をこよなく愛し、これまで何度も富士山に登られているスペシャリストです。その酒井さんから富士登山の魅力を伺ううちに、「ぜひ自分も登ってみたい」と思い、今回の挑戦が実現しました。

とはいえ、私は普段、運動らしい運動といえば犬の散歩くらいです。そこで、富士山に登ると決まってから、さすがに少し準備をしなければと思い、まずは脚力をつけようと、自宅近くの神社の長い参道を利用して、階段の上り下りをしました。また、富士山では標高が高くなるにつれて空気が薄くなるため、高山病についても調べました。さらに、実際の登山では岩場や急な斜面を歩くことになるので、登山靴を履いて歩く練習をしたり、当日の装備をそろえたりしました。いずれも「付け焼き刃」の準備でしたが、せっかく挑戦するのだから、できる準備はしておこう」と思い、できる範囲で準備をして当日を迎えました。



登山当日は、四つの登山ルートのうち、静岡県の富士宮口を經由して御殿場口から上るルートを選択し、標高2400メートルの富士宮五合目から昼の13時ころ、青空ものぞく中でスタートしました。この登山ルートは、現在の天皇陛下が皇太子時代に登られたことから名づけられた「プリンスルート」。江戸時代に噴火した宝永火口を眺めながら登るルートで、最初はハイキング気分でした。しかし30分も過ぎると次第に勾配はきつくなり、30歩歩いては休み、水分を補給し、また30歩進んでは休む、という苦しい道に変わっていききました。

さらに「山の天気は変わりやすい」という言葉通り、途中から天候が急変しました。富士山は360度風を遮る場所が無く、雨と風が強くなり、体ごと吹き飛ばされそうになる突風が襲いました。合羽を着ていても頭から足まですぐ濡れになり、靴の中までびしょびしょでした。夕方17時過ぎ、標高3090メートルの山小屋にようやくたどり着いたときには、精も根も尽き果て、「最後まで登り切れるだろうか」と弱気になり、心の中では「もう二度と来るものか」とさえ思っていました。山小屋の狭いスペースで濡れた衣服を着替え、一息ついて食事をとり、20時30分の消灯前には横になりました。しかし、慣れない山小屋で寝るスペースはわずか半畳ほど。枕もなく、なかなか寝付けません。焦れば焦るほど眠れず、気づけば23時を過ぎていました。





頂上でのご来光を見るため、ちょっととうとしかけた深夜1時に起床し、登山を再開しました。登山道は真っ暗で、頭につけたヘッドランプの明かりを頼りに、急な崖道を一步一步、着実に踏みしめながら山頂を目指します。見上げると、頂上を目指す人たちのランプの光が、つづら折りの道を照らしていました。

頂上はそこに見えているのに、なかなかたどり着けません。それでも、目標を達成するためにマイルストーンを決め、一步一步進んでいけば、着実にゴールは近づいてくる。「次の岩まで行こう」「次のカーブまで行こう」そうやって一步一步進んでいくと、必ずやゴールにたどり着ける。そのことを、体をもって実感した時間でした。

富士山頂に到着したのは朝の4時30分。日の出まで、あと10分でした。眼下に山中湖を見下ろしながら、雲海の広がる東の空が太陽の光で真っ赤に染まっていく姿は、まさに絶景でした。あれほど辛かった登頂の苦労が、目標を達成した満足感と充実感で満たされていく瞬間でした。その後、富士山最高地点である3776メートルの「剣が峰」で記念撮影をし、二松学舎のタオルを掲げて、我々4人の足跡をしっかりと残してきました。



今回の登山は、勢いで取り組むことになったものでしたが、自分自身の挑戦をやり遂げられたことは、大きな意義があったと感じています。

皆さんはこの夏、何かに挑戦し、取り組んだ経験はありましたか。勉強でも、部活動でも、資格や検定、留学でも、人間関係でも構いません。大きな挑戦でなくてもいいのです。「今までできなかったことを一つやってみる」「苦手なことから逃げずに、一歩踏み出してみる」それも立派な挑戦です。そして、挑戦した結果、うまくいかなかったとしても、挑戦した人にしか得られない経験が、必ず残ります。挑戦そのものに価値があります。ゴールが見えていてもなかなか近づかない、そんな時こそ、小さな一歩を積み重ねること。それが必ず、皆さんを目標へと導いてくれます。

これからの学校生活の中でも、ぜひ「挑戦」の姿勢を大切にしてください。大切なのは昨日の自分を少しだけ超えること。2学期には、文化祭や体育大会、部活動の大会、勉強や進路への取り組みなど、皆さんが挑戦できる機会がたくさんあります。2学期も、皆さんにとって実り多い学期となることを願っています。

